

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03 (3581) 6211 (代表)
定価 1部 108円(税込み)



自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>



日本の元気! 地方創生を推進する。 経済再生の流れを止めてはならない。



埼玉第2選挙区・新藤義孝支部長
(第2次安倍内閣・総務大臣)の、
政治活動と政策を特集します。

九月の内閣改造により交代するまで、一年八ヶ月にわたり総務大臣を務めさせていただきました。在任中に賜ったご声援に心から感謝申し上げます。

現在は地方創生にかかる衆議院の特別委員会・与党筆頭理事や、自民党の統合実行本部・筆頭本部長代理を拝命し、国会側における地方創生の推進役として、大臣時代とはまた別の目の回るような忙しさの中で活動しております。

「日本を取り戻す。」私達が目指すのは、経済成長と財政再建を両立させ、強い経済と優しい社会を実現させることです。

「アベノミクス」は、雇用の改善や賃金の上昇など、一定の成果を上げつつありますが、未だ歩みは始まったばかりです。

特に景気回復の実感を全国各地にお届けするためには、それぞれの地域特性を活かした「地方創生」の強力な推進が欠かせません。



併せて、日本の新しい成長を創りだすためには、「ICT」(情報通信技術)を活用した技術や、サービスの新しい組み合わせによって「イノベーション」を起こさなければなりません。

医療や教育、防災など我が国の社会的課題を解決する日本独自の新たなシステムは、他国の課題解決にも活用できます。日本はこれらを「国際展開」することで、世界に貢献しつつ、自国の経済市場を拡大出来るのです。

始めたばかりの安倍政権の諸政策をまっすぐ進めることが、「日本の元気を創りだし」、国民の皆さまに「明日の希望」をもたらすと信じ、精進してまいります。

日本の新しいステージをつくるためには「この道しかありません」。皆様のお力をぜひとも貸していただきたいと思います。

新藤 義孝

新藤義孝が取り組む最重要政策

I can do.

地方創生の推進。

地域の元氣のかたまりを日本の元氣に。

東京への一極集中に歯止めをかけ、人の流れを変える。魅力ある地域づくりを支援し、地域資源や恵まれた生活環境のもとで、多くの雇用を創りだす。それが地方創生です。

●人口減少問題は、女性が安心して子育てできる社会を創ること。若者が、就労・結婚・子育てへの希望を持てる施策を打つこと。

●バラマキとならず自由な事業を応援する新型交付金の創設や、自立した地域づくりのための地方交付税の拡充・強化を行います。

●政府内に国のタテ割行政を排し、各省連携を強化するためのプラットフォームを構築し、従来とは異次元の推進体制とします。

●主役である地方は責任と自主性を持ちます。事業の持続可能性や採算性、数値目標の設定やその効果検証を盛り込んだ計画が策定されます。



長崎県対馬市志多留地区で、島おこし共働隊と地区の皆さんと。

ICTによる新たな成長戦略

Information/Communication/Technology

コンピュータを駆使し、様々な情報やサービスを組み合わせ、新たな付加価値産業を興し、社会的課題を解決させていきます。イノベーションによる経済成長を目指します。

事業の効率性を飛躍的に高める例として、

●教育とICTの連携で、遠隔教育が可能。

●交通とICTの連携で、渋滞の緩和が可能。

●農業とICTの連携で、流通の無駄が排除。

●衛星とICTの連携で、防災の精度アップ。

●労働とICTの連携で、テレワーク社会に。

●地デジとICTの連携で、通信と情報の融合。

ICTによる新たな社会の共通基盤を構築することで、同じ経費で数倍の効果を得たり、同じ効果を数分の一の経費でもたらすことが出来るようになります。ICTの徹底導入は劇的な経済成長をもたらすのです。

総務大臣として始めた日本を元気にする新しい戦略をさらに進めます。



光ファイバーのネットワークを活用し、タブレット端末で天気予報を見て、市場価格の動向も予測、効率的な採集と市場選びで高収入を。「料理用葉っぱビジネス」など地方創生にもICTが活躍しています。(徳島県上勝町の元氣なお年寄り)

海洋資源開発の国策化。

資源小国から海洋資源大国へ。

日本の国土面積は世界61位ですが、排他的経済水域(EEZ)は世界6位の広さを持つ海洋国家です。日本近海には、メタンハイドレート(燃える水)といわれる次世代天然ガスが、確認されているだけでも年間使用量の約100年分存在するとされています。

南鳥島沖合の深さ6000メートル付近で各県されたレアアース泥は埋蔵量が世界の陸地にあるものの800倍になると想定されています。海底熱水鉱床には、銅・亜鉛・マンガン・金・銀等が80兆円分あるといわれています。

私はこうした海洋石油・鉱物資源開発を国家戦略プロジェクトとして徹底的に推進すべきと考えており、自民党内に「資源確保戦略推進議員連盟」を立ち上げ、推進にあたっています。

総務大臣として、海のブロードバンド構想を提唱し、来年度には海上の通信環境を飛躍的に向上させるための実証実験も開始されます。



東京大学での「レアアースシンポジウム」で講演。

日本の領土と主権を守る。

歴史事実と法と正義による解決を。

国家を成立させる3つの基本要素は、「国民意識の統合」「領土の保全」「主権の確立」です。国家の基本問題をおろそかにする国は、国際社会から信頼されず、国益を失うのです。

前政権時代の平成24年7月、ロシアの首相が国後島に2度目の上陸。同年8月韓国の大統領が竹島に初上陸。そして同8月尖閣諸島に香港の活動家の上陸。現状、尖閣周辺への中国監視船の侵入は常態化し、海保が嚴重な警備体制を継続中です。

本年は小笠原諸島の領海内に、9月以降中国漁船が200隻以上侵入し、赤珊瑚の密漁が行われ、海上保安庁の体制や取締法の執行強化が急務となっております。

私は自民党「領土に関する特命委員会」の活動と共に、超党派の「日本の領土を守るため行動する議員連盟」の会長に就任しました。

今後、領土問題に関する政府体制の拡充、国際社会への情報発信強化、学術研究のための新機関設立など、冷静かつ具体的対抗策の確立に向けて活動してまいります。



安倍首相と硫黄島を慰霊訪問する。

川口の元氣をつくる。

課題解決と新たな魅力づくり。

私たちのまち、川口市は人口約59万人。政令指定都市を除く全国3位の大都市です。铸件・機械・植木の地場産業のまちである一方、首都圏のベッドタウンでもあります。我がまちの課題解消策の一例を挙げます。

①交通混雑の解消のために、湘南新宿ラインの川口駅停車▼JR東日本と交渉中。
②東部地区の交通不便の解消のために、日暮里舎人ライナーとのアクセスの改善▼川口市において調査研究中。
③治安の向上のための北部に警察署の新設▼国・県など関係機関と折衝中。
④医療・福祉連携のための、地域包括ケアシステムのICT化と、メディカルネガバ

ンク事業への参加。▼川口市へ提案中。
⑤NHK跡地・SKIPシティを活用した新たなコンテンツ産業の誘致、取り組み。▼総務省、NHK、県市で協議中。

私はこれまでの経験を活かし、新しい川口の元氣をつくるために、国・県・市の連携を強め、実行してまいります。



子どもたちは、国の宝。明るい笑顔がわれわれの元氣の源。

■昭和33年1月
埼玉県川口市
に生まれる。
■昭和55年
明治大学卒業



二男一女の長男として
すくすくと育つ。



母方の祖父は硫黄島最高司令官の
栗林忠道陸軍大将



■平成9年9月
北方領土の択捉島を訪問。領土問題
に対して具体的な活動を行う。



■昭和55年4月
川口市役所に11年間奉
職。川口の街づくりな
どに携わる。



■平成8年10月
衆議院総選挙で初当選(38
歳)。地元川口から29年ぶりに与
党・自民党代議士が誕生する



■平成9年4月
コソボ難民の状況を視察するために
自費で現地へ。「顔の見える国際貢献」
を始める。当時の国際高等弁務官
だった緒方貞子氏より「いちばん動き
が早い日本の政治家」と称される。



■平成10年9月
川口に小渕恵三元総理大臣を視察に招
く。永田町から近くて遠いと言われていた川
口に初めて総理大臣が訪問。これが全国
初の「タウンミーティング」となった。

■平成13年5月
小泉内閣で総務大臣政務官を拝命。総務
省が各府省に行政運営の改善を求める行
政評価・監視制度のさらなる活用を提言す
るなど行政改革に注力。

新藤義孝プロフィール 現場を重視し、成果を出す政治。

ウェブサイト▶ www.shindo.gr.jp フェイスブック しんどう義孝 検索 Twitter @shindo_y



■平成14年10月
小泉改造内閣で外務大
臣政務官を拝命。日露非
核化協力プロジェクト推進
の提案をまとめ上げる。



■平成23年1月
衆議院 決算・行政監視委員長に就
任。「国会版事業仕分け」を始める。



■平成17年11月
自民党「国防部会長」に
就任。外交領土・防衛を
総合的に考える自民党
きつての論客と言われる。



■平成19年8月
第1次安倍改造内閣、
福田内閣で経済産業副
大臣を拝命。日本経済の
立て直しの提言を行う。



■平成21年10月
自民党ネットメディア
局長に就任。自民党ネ
ットサポーターズクラブ
を立ち上げる。



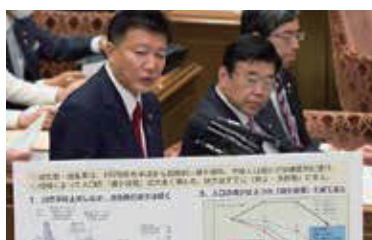
■平成25年8月
川口からは56年ぶり2人目の大臣が誕生。
皆様のご支援おかげさまで。感謝



■平成23年8月
韓国鬱陵島にある竹島博物館などの
視察に訪れる。金浦空港では入国反
対デモがあり、韓国政府からは法的
根拠のない入国禁止措置を受ける。



■平成25年4月
祖父が祀られている靖国神社へは
毎年参拝。大臣就任後も戦没した
方々へ尊崇の念を持って参拝を続
けていることがニュースに。



■平成26年10月
衆議院地方創生に関する特別委員
会筆頭理事に就任。地域の元気の
ため、新型交付金の創設や地方交
付税の充実強化など実効性ある施
策を総理に提案。

■平成24年8月
尖閣諸島を洋上視察。

新藤総務大臣の足跡

大臣在任中の活躍を知る資料として、総務事務次官の「送別の辞」を転載。



大臣室で「チーム新藤」の官僚たち36人と最後の記念写真

新藤大臣は第二次安倍内閣発足以来1年8カ月余りのご在任でした。大臣は就任後直ちに、総務省の施策を分かりやすく、ミッションという形で目標化し、その実現のために具体的に指示されました。

経済対策の迅速・円滑な実施を図るため、**大臣が創設された1・4兆円の「地域の元氣臨時交付金」**は、大臣のネーミングも話題になり、地方団体に大変歓迎されました。また、平成25年度の**地方公務員給与**

を国家公務員並みに減額する措置は、大臣自ら地方6団体の代表に丁寧の説明を重ねられたことが、地方団体の理解に繋がりました。ご在任中の**総務省提出法案は22本、内閣府特命担当大臣として提出された法案が4本、合わせて26本の法案全てを成立させて頂きました**。国会における答弁の回数は**2531回に及び、驚異的な回数であります**。

大臣は「時代を拓くカギはICTによるイノベーションにある」と考えを明確に示し、行政のICT化の徹底。Eガバメント閣僚会議の創設を唱え、電子政府の推進をリードされました。また、効率的で良質な行政実現のため、政策評価の標準化と重点化を推進されました。



総務大臣執務室にて



日本国の閣僚初訪問を歓迎する子ども達(モルディブ・ナイファル島)

行政不服審査制度は、法制定後じつに**52年ぶりの抜本改正**を成し遂げられ、政府統計についても新機軸を打ち出され、来年の国勢調査では「ビッグチャレンジ」として**世界最大規模のオンライン調査を実施することなど、総務省の改革に大きく貢献されました**。

地デジ日本方式の国際展開では、**大臣のトップセールスで在任中に6カ国が日本方式を採用することとなりました**。ICT海外展開に当たっては、**16カ国を訪問され、そのうち9カ国は総務大臣初訪問であるなど精力的な取り組みをいただきました**。

また、大臣は就任時から「地域の活性化なく日本の再生はない」と主張され、「**地域の元氣創造プラン**」を策定推進。「**総務省は事業官庁たれ**」という大臣のお考えの下に、地域経済イノベーションサイクルを実現する交付金事業を創設されました。また、地域活性化の推進に関する閣僚会議を新設され、**地方の課題を関係省庁で総合コンサルタントする地域活性化プラットフォームを構築されました**。

大臣はお忙しいスケジュールのなかで、努めて**東日本大震災の被災地をはじめ、地域活性化に取り組む地域を訪問して、激励されました**。総務大臣初訪問の市町村も多く、現地では行政相談委員や郵便局員、地域おこし協力隊員らと意見交換を行い、現場の声を汲み取って頂きました。

大臣には、ご在任中に、数えきれないほどの多くの功績を残していただきました。大臣の仕事振りは、質的にはもとより、量的にも圧倒的なもので、大臣のご尽力により、**総務省のイノベーションは大いに進みました**。

改めて厚く御礼申し上げます。今後は総務省の応援団長としてご支援を頂きたく、宜しく御願いたします。(一部抜粋)



総務省

提出された法案26本、全て成立。答弁の回数2531回は、実に驚異的な回数であります。